

【会話】……………会話・思考・独白	【外面】……………外見・行動	【背景】……………場面・情景・状況	【説明】……………語り手の追加説明
頁、行、種類、描写		心理・比喩・状況などの説明	

妻に近い将来死が訪れるという認識

妻の死を覚悟して、自分と妻に楽しい思い出を言い聞かせている。

現状を肯定し、前向きになろうとしている。
先への希望を持たせようとしている。

領いている。
差し迫った死に気づかない妻が哀れである。

神頼みしかもう手段はない。
死の前の静けさ・不気味さ。
夜鴉（死のメタファー）が間近に迫る。

日に日に病状が重くなっている。何を詰め込もう。何をすることもできない。無力感。

「時間の上で疾走」――ただ死を待つだけ。
無力感
 「沈める」――生命力がなくなる（メタファー）

妻の死に対してなすべがなく責任転嫁をしている。

「太陽」⇒生命のメタファー
「海面」⇒不気味さ 「船」⇒なすすべがない「彼」⇒（メタファー）

「落ちていく」――沈んでいく太陽」
死を感じとっている。妻は

「安心」――死から逃れた？死への覚悟ができた？

妻がやがて訪れる死に気づいてしまったという絶望感。
妻が死への世界を覗いている不気味さ。(メ
タファー)

差し迫る妻の死への彼の覚悟

苦しみを長引かせるなら、安らかな死を与えてやりたい。

※妻に「やれる唯一の」と

妻も死を覚悟している。

葛藤

g

妻にすぐに死んでほしくない。
（命を長引かせてほしい。）
励ましたい。

妻には死んでほしくないが 本人の苦痛取り

除いて(＝死)やりたい。
 「鴉」＝「死」のメタファー。↓花壇の上に
 居座る「死」が避けたら嫌いだ。
 鴉に対して「愛撫の微笑」＝死を受け入れて
 いる。

「気の早い」……まだ死んでいないのに。もうすぐ死ぬよ。（＝死の受け入れ）
妻の死を超越した姿に、それまでの葛藤が晴れた。＝妻の死を受け入れる

妻の死を超越した後の別れの言葉。

妻の死の受け入れ。